

法を施行した。しかし左乳房皮膚に潰瘍を形成したことから動注療法を中止し、平成9年1月から原発巣、左鎖骨上下部および左腋窩にそれぞれ60Gy ずつ放射線療法を施行した。その後も御本人が積極的治療を希望せずTAM内服にて通院治療中で、平成13年7月より多発肺転移、平成15年8月より多発肝転移を認めるが、現在まで11年生存例という稀な症例を経験した。

2 腓 solid-pseudopapillary tumor の1男性例

丸山 智宏・島田 能史・金子 和弘
 若井 俊文・白井 良夫・島山 勝義
 大橋 優智*・味岡 洋一*
 新潟大学大学院消化器・一般外科学
 分野
 同 分子・診断病理学分野*

症例は45歳、男性で、ドックの腹部エコーで左上腹部腫瘍を指摘され、近医を受診し、腓尾部腫瘍の診断で当科紹介となった。造影CTで腓尾部に長径78mm大の嚢胞性部分と充実性部分が混在している腫瘍を認めた。MRIでは嚢胞内の出血が示唆された。solid-pseudopapillary tumor (以下、SPT)を疑ったが、鑑別診断として漿液性嚢胞腫瘍、悪性リンパ腫なども念頭に置き手術を施行した。術中迅速病理検査でSPTの診断であり、脾合併腓体尾部切除術を施行した。術後経過は良好で18病日に退院となった。

SPTは腓原発の比較的まれな腫瘍であり、若年女性に好発することが知られているが、近年男性例の報告も散見される。本邦におけるSPT報告例302例中男性は40例、女性は262例であり、腓嚢胞性腫瘍の鑑別診断の際には男性にも発生する腫瘍であることを念頭に置くべきである。術後再発や原病死が少ないことから低悪性腫瘍の位置づけであり、治療の原則は外科切除である。

3 ラパコレこぼれ話

— 2007年本田賞受賞式に出席して —

中村 茂樹

県立加茂病院外科

【本田賞】

・欧米を中心とした130人の推薦人が無記名で推薦。「エコテクノロジー」の観点から顕著な業績を上げた個人またはグループから選ぶ。

・分野を問わず、副賞1000万円が授与される。

【本田財団】1977年本田技研工業の創業者 本田宗一郎が私財を投じて設立した財団。本田賞のほか、国際シンポジウムセミナー、YES奨励賞などを通し、「科学技術を人間の幸福のために役立てる」活動を実践している。

【Mouret先生の選考理由】

・腹腔鏡胆嚢摘出術の創始者
 ・圧倒的な健康上、経済上、美容上の利点
 ・腹腔鏡手術の世界的広がり
 ・唯一の文献「ある奇妙な手術から5年」(1993 医事新報, 中村訳)

【中村の出席】

Mouret先生が本田財団に対し「受賞式には、親友である新潟の中村を招いて欲しい」といった。

【世界初の腹腔鏡下胆嚢摘出術】

1987 Philippe Mouret (外科医)
 ・X夫人 卵巣嚢腫+胆石症
 ・骨盤高位から頭高位への転換 (骨盤操作から上腹部の操作へ)
 ・器材; スコープ, フック鉗子, コッヘル鉗子, 開腹用クリップ
 ・ビデオコントロールは第2例から
 ・手術時間約3時間, 「世界最初で最後の手術」
 ・驚くべき術後経過

【周囲の反応】

・初期の無理解
 ・Perissat (Bordeaux 大学), Dubois (Paris 大学)との連携「黄金の△」
 ・他の開業医や患者の支持
 ・アメリカ人の迅速な反応